

モグラの空中ハウス登場…!?

捕獲した場所で生態展示をする日本初の企画!

『考えるモグラ ～ぼくらはエコ生活を知っている～』 4/21(土)～6/3(日)



生態展示風景 (2012年4月20日撮影)

国営ひたち海浜公園では、園内のあちこちで地中の土が盛り上がっている場所が見られます。これは「モグラ塚」と呼ばれるもので、モグラが数多く生息していることを示しています。

実物を見ることや、その生態を知る機会が少ないモグラですが、モグラが活動できるということは、モグラの餌となるたくさんの昆虫やミミズが生きていける豊かな自然環境があるということです。

今回、当公園ではモグラが数多く生息している自然環境を生かし、**日本で初めて、モグラを捕獲したその場所で生態展示をする**「考えるモグラ～ぼくらはエコ生活を知っている～」を開催します。4月21日(土)から6月3日(日)の期間、会場に金網で作ったトンネルを吊り下げ、普段なかなか見ることができないモグラの生態を観察します。

モグラは環境の影響を受けにくい地中での生活に適応して進化していき、自らが生きていくために土壌を耕し、豊かにして、自然と共存してきました。そのモグラの生態を知ることによって、エコロジーへのさらなる関心を持つ機会にいただければ幸いです

お問い合わせ先

国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター 広報宣伝チーム 青木・服部・和光

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4

TEL: 029-265-9001 (報道関係者の方は 029-265-9004・9005 迄) FAX: 029-265-9339

ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp> “ひたち海浜公園”で検索。

考えるモグラ ～ぼくらはエコ生活を知っている～

モグラの存在は知っていても、実際に見たことがある人は少ないのではないのでしょうか。ともすれば、庭や畑にトンネルを掘って農作物を食い荒らしたりする迷惑な存在と思っている人もいるかもしれません。

モグラがどのような姿をしているのか、また土の中でどういう生活をしているのか。東京農業大学農学部野生動物学研究室 安藤元一先生の指導のもと、公園内で捕獲したモグラを金網で作ったトンネルで飼育し、その生態を観察していただきます。

そのほか、パネル展示やトークショーで、自然環境に適応したモグラの生活を、楽しく、わかりやすくご紹介します。

※捕獲したその場所でモグラを生態展示するのは日本初の企画です。

■日 時：4/21(土)～6/3(日)
9:30～17:00

■場 所：テラスハウス

■観 覧：無料(※入園料等は別途必要です)

■協 力：東京農業大学農学部 野生動物学研究室

※茨城県に捕獲許可申請済(許可証 茨城県第 235002 号)



5/27(日)は
安藤元一先生の
トークショーを開催!

公園でモグラ捕獲大作戦!!



捕獲されたモグラ



安藤 元一 教授

東京農業大学 農学部
バイオセラピー学科



◇なぜエコなのか?

モグラの先祖は地表の落葉層の下などで暮らしていた動物だったと思われます。それがどうして地中の生活に進化していったのでしょうか。その最大の理由は、地上に比べて地中の気温が一定で生活しやすかったことにあります。温度変化が少ない地中では、人間や地上の動物に比べて余分なエネルギーを使う必要がありません。また、餌となるミミズや昆虫の幼虫なども年間を通じて見つけることができます。

そのような環境を上手に利用しながら、常に地中を耕すことで、水はけのよい酸素を多く含む良好な土壌環境を作ることに貢献しています。モグラは自然の保全に貢献するというエコ生活をしながら進化してきたのです。

■温度変化に対する「人間」、「地上の動物」、「モグラ」の違い

人間

地上の気温は季節によって大きく異なり、時には一日の夜と昼でも 20℃以上も変化します。このため、人間は夏に冷房、冬に暖房を使います。これには大量のエネルギーが必要です。

地上の動物


動物はエアコンを使いませんが、体内で消費されるエネルギー量は季節によって変わります。多くの哺乳類は気温が 20～30℃の範囲を超えたり下回ると、暑くても寒くても体温調節のために余分なエネルギーを使います。例えばイヌが気温 0℃の時、消費するエネルギーは 20℃の時の 2 倍になります。

モグラ

地下 30cm 以上の深さになると、一日の気温変化はほとんどなくなり、季節による変化も少なくなります。つまり、モグラは温度変化に対して余分なエネルギーを使う必要のない、省エネ生活をしているのです。


◇モグラってどんな動物…？

モグラのイラストやキャラクターを見ることは多くありますが、実際にモグラを見る機会は少ないのではないのでしょうか。人々にあまり知られていない、モグラの体の特徴をご紹介します。




目

目は小さいですが、最近の研究では光を感じることができるのではないかと考えられています。




耳

耳は毛で隠れていて、耳たぶはありません。




毛

毛は直立に生えているので、トンネルの中でもどちらの向きに進んでも引っかかりません。




アズマモグラ／
コウベモグラ
【モグラ科モグラ属】

公園で捕獲したのはアズマモグラ。他所にて捕獲したコウベモグラも展示中。アズマモグラの方が、小さく、おとなしい。主にミミズや昆虫の幼虫を食べる。
※植物は食べない！




口

唇と歯の間に肉ヒダがあって、泥が口の中に入りにくくなっています。



手

前足は大きく、シャベル状になっており、土を掘りやすくなっています。



尾

トンネルの中では、体のバランスをとる必要がないので、短くなりました。

◇なぜ金網のトンネルでも生活できるのか？

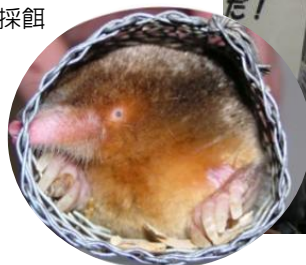
地中のトンネルで生活しているモグラは、体が常に何かに接触していることを好みます。毛は皮膚に直立してピロード状に生えており、そのおかげで前進も後進もすることができます。この体毛の感覚と、優れた鼻のおかげで暗いトンネルの中でも生活することができます。

そのため、金網を用いてモグラの体と同じくらいの太さのトンネルを作ってあげれば、モグラは地下のトンネルにいるのと同じように生活することができます。目が見えないので、暗い場所である必要はありません。

モグラが金網を通ると、毛が金網にこすれ、ブラッシングしたように毛並みがととのえられます。また、金網の隙間から鼻を出して臭いを嗅ぐような行動をします。これは、採餌



(さいじ) 活動の欲求が満たされる効果があると言われています。



◇日本のモグラの分布

日本には現在6種類のモグラがいて、そのうち4種類が絶滅の恐れがある種です。東西の2大勢力として、東日本に「アズマモグラ」が生息し、西日本に「コウベモグラ」が生息しています。

何万年も昔、日本がまだ大陸とつながっていた頃、朝鮮半島を通して体の大きなコウベモグラがやってきました。当時の日本にはすでにアズマモグラが生息していましたが、体も小さく大人しい種であるため、コウベモグラにどんどん北へ北へと追いやられてしまいました。しかし、箱根山があるため、その岩石地帯をコウベモグラは超えることができず、それ以上東へ進むことができなかつたとされています。



◇モグラと土壌・森林の関係

地中に暮らすモグラにとって、豊かな土壌と森林はとても大切です。なぜなら豊かな土壌にはモグラの餌となるミミズや昆虫がたくさん生息しており、大食いのモグラは餌がたくさんある豊かな土壌でしか生きてゆけないのです。

豊かな土壌には植物が欠かせません。植物は光合成により、酸素をつくり出す大切な存在であることはもちろん、様々な生物の餌や住処となっています。

モグラは地下に無数のトンネルを掘ることで土を耕しています。固い土は砕かれ、空気に触れることで酸素を取り込み、土壌生物の活動が活発になります。それにより、植物が育つ豊かな土壌が生まれるのです。このようにモグラが生息するところは、昆虫や植物が生きていくのに適した環境だと言えます。モグラ塚は豊かな環境であることの目印なのです。